

令和7年度 江戸川区立一之江第二学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> よく考え、進んで学習する子ども 思いやりがあり、助け合う子ども 体力のある、元気な子ども 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> 明日登校するのが待ち遠しい学校 よく考え、進んで学習する子ども・思いやりがあり、助け合う子ども・体力のある、元気な子ども 子供たちの「明日」を考えた指導ができる教師
前年度までの本校の現状	成果 <ul style="list-style-type: none"> 学力診断テストを通して、基礎・基本をしっかりと身に付けることができた。 HPをこまめにアップすることで、学校の様子を地域保護者に積極的に発信することができた。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業改善や体力向上に向けた取組に取り組んだが、体力テストの結果の向上にはつながらなかった。 保護者からのアンケートを2回実施することで、教育活動の充実につなげていく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	学習の基盤となる基礎、基本の確実な習得のためのテストの実施	東京ページックドリル診断テストの実施	年度末実施の診断テストの正答率60%未満の割合10%未満	20%	60%	D	現在の達成率は低いが、年度末の診断テストでは、目標を達成できるように各学年の取組を引き続き行っていく。	C	20%の保護者が、学力が十分に身につけていないと感じている。	C	1月実施の診断テストの正答率60%未満の割合10%未満の学年は2年生のみだった。	C	26%の保護者が、学力が十分に身につけていないと感じている。	診断テストの結果を分析し、個別指導を行っていくことが必要である。
	家庭学習習慣の定着に向けた学校の組織的な対応による取組の実施	家庭学習週間（江戸川っ子study week!）の設定の実施	ドリルパークを活用し、7日間×3回（毎学期1回）の実施	80%	90%	B	ほとんどの児童が取り組むことができていた。取り組みでない児童への言葉掛けを強化していく。	B	79%の保護者が、学校の家庭学習習慣が身に付く取組を評価している。	B	家庭学習習慣の取組を受けて、90%以上の児童が、日々の宿題にもしっかりと取り組むことができていた。	B	86%の保護者が、家庭学習習慣の定着に向けた学校の取組を評価している。	家庭学習習慣の定着に向けて、継続した取組を行っていく。
	読書科の更なる充実	学校図書館を活用した探究的な学習の実施	学期に1回、全学年で実施	57%	80%	C	図書館を使っている探究的な学習を学期に1回行っていない学年があった。教科単元を調整して実施していく。	B	学校の取組を通して、読書に触れることができていない子供が多かった。	B	学期に1回実施できていない学年も、年に1回は取り組むことができていた。	B	88%の保護者が、読書に触れる機会の創出に向けた学校の取組を評価している。	読書科において、各教科等と関連して、探究的な学習を行っていくよう、年間指導計画を立案していく。
体力の向上	持久力や敏捷性などの基礎体力の向上に向けた取組	体育授業における運動量の確保	一単位授業あたり、30分間以上の運動時間確保	90%	100%	A	各学級とも運動量を意識して体育の授業に取り組むことができていた。	B	学校公開では、たくさん汗をかいて体育の授業に取り組んでいた。	A	全学級の体育授業時間で主運動に取り組む時間を30分確保することができた。	A	学校公開では、友達と協力してすすんでゲームを行っていた。	場の設定の仕方などを工夫して、各学級の体育の授業で、運動時間をより充実させていけるようにする。
		江戸川っ子なわ跳びウィーク	年間2週間×3回のなわ跳びウィークの実施	88%	100%	B	なわ跳びウィークを実施することができたが、より充実した取組になるよう検討が必要である。	C	家庭で日常的に運動に取り組んでいる児童の割合が少ない。運動の日常化につながるような取組を行っていく。	C	年間をとってなわ跳びウィークの取組を行うことができたが、新たな取組を進めていくことはできなかった。	C	保護者アンケート・児童アンケートの結果から、取組が運動の日常化や子供の意欲につながるものではなかった。	児童の意欲を喚起できるような取組にしていく。
		校内研究による教員の授業力向上による、運動の質の向上	年間6回の研究授業の実施と協議会による授業検討	90%	100%	A	研究を通して、体育の授業力の向上につながっている。継続して取り組んでいく。	A	学校公開では、友達と協力して楽しそうに体育の学習に取り組んでいた。	A	全教員が、校内研究が授業力の向上につながったと実感することができた。	A	学校公開では、友達と協力してすすんでゲームを行っていた。	引き続き、基礎体力の向上につながる体育学習を行っていく。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	特別支援教育の推進	適正な就学に向けた保護者との連携	対象児童の保護者との連携率100%	100%	100%	A	対象児童の保護者ときちんと連携して、対応することができている。	A	担任、保護者、巡回指導担当教員で課題を共有し、連携して指導に当たることができている。	A	対象児童の保護者と適切に連携をして、取り組んでいくことができた。	A	巡回指導に通う児童の保護者は、連携した対応ができていると感じている。	引き続き、担任、関係機関、保護者と連携した対応を行っていく。
	異学年交流	いちにタイムの充実	年間8回の実施、児童アンケートで「いちにタイムが充実している」という回答90%以上	100%	93%	A	教員目標では、充実した活動を行うことができていた。取組を継続させていきたい。	A	学校の取組を通して、充実した異学年交流を行うことができていた。	A	全教員がいちにタイムの活動が充実した活動になっていたと感じられる取り組みを行うことができた。	B	感染症等の影響により、中止や延期になってしまったこともあり、楽しみにしていた活動を行えないこともあった。	児童が計画したことが実現できるよう、引き続き、全教員で支援していく。
		あいさつから始まる異学年交流	児童アンケートの「すすんであいさつをしている」という回答90%以上	86%	91%	B	あいさつができていない児童とそうでない児童の差を感じる。得意ではない児童の習慣化につながる取組を検討していく。	B	81%の保護者が、子供たちはあいさつがきちんとできているとアンケートで回答している。	B	前期から代表委員の児童が新たな取組を行ったことで、自分からすすんで挨拶をする児童が多くなった。	C	子供たちはあいさつがきちんとできているとアンケートで回答している保護者は73%に下がってしまった。	代表委員の児童が中心になって、あいさつを推進した取組を行っていくよう全教員で支援していく。
不登校・いじめ対応の充実	子どもたちの健全育成に向けた取組	いじめの早期発見・早期対応。	年3回のふれあい月間の実施	100%	100%	A	いじめアンケートやいじめに関する授業を確実に実施し、いじめ防止に向けた取組を推進していくことができている。	A	89%の保護者が、いじめの早期発見・早期対応に向けて学校は取り組んでいると評価している。	A	ふれあい月間の取組を全教員が確実に行うことができた。	B	いじめの早期発見・早期対応について、保護者のアンケートの結果は82%に下がってしまった。	学年や学校全体の取り組み方を見直し、協力して適切な対応を行っていくようにする。
		不登校の解消に向けた取り組み	対象児童の保護者・SC、SSW等の関係機関との連携率100%	100%	100%	A	対象児童の保護者に対して、担任、学年、関係機関等へ対応をすることができている。	A	92%の保護者が、自分の子が楽しそうに学校に通っていると感じている。	A	対象児童の保護者に対して、担任、学年、関係機関等へ対応をすることができている。	A	93%の保護者が、自分の子が楽しそうに学校に通っていると感じている。	不登校傾向のある児童に対して、全教員で連携をして適切な対応を行えるよう努めていく。
		L-Gateを活用して日々子供の実態把握に努める。	実施率100%	70%	66%	B	日によってL-Gateを実施できていない学年、学級があった。後期は全学級完全実施を目指していく。	A	90%の保護者が、学校は子供たちの姿を見守り、指導・支援を行っていると感じている。	B	L-Gateを有効に活用できていない実態がある。いじめや不登校の未然防止に努めていく必要がある。	B	85%の保護者が、学校は子供たちの姿を見守り、指導・支援を行っていると感じている。	L-Gateの有効な活用例を教員間で共有し、いじめや不登校の未然防止に努めていく。
学校（園）開かれた地域社会の実現	学校（園）ホームページの充実等	学校ホームページの更新	毎日更新を行う	75%	100%	A	毎日学校ホームページの学校日記の更新を行うことができた。	A	87%の保護者が、学校だよりやホームページを通して学校の様子がよく分かるかと評価している。	A	後期も全教員で分担して、学校日記をほぼ毎日更新することができた。	A	87%の保護者が、学校だよりやホームページを通して学校の様子がよく分かるかと評価している。	引き続き、HPの更新と学校・学年だよりの発行を適切に行っていく。
	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた本シートに基づいたアンケートの実施	前期後期の年間2回を実施する。	100%	100%	A	前期の教員アンケート、保護者アンケートを基に、話し合った改善策等について、取り組んでいく。	B	前期の学校評価アンケートに対して、194件の回答があり、多くの保護者が教育活動の改善・充実に協力している。	A	前期・後期の2回教員アンケート、保護者アンケートを行い、取組について振り返ることができた。	B	後期の学校評価アンケートに対して、196件の回答があり、多くの保護者が教育活動の改善・充実に協力している。	学校評価で得たことを、教育活動の改善と充実に確実に還元していくよう、各分掌で取り組んでいく。
	保護者が学校に足を運ぶ機会の充実	学校公開・保護者会・運動会等の実施	保護者が学校に来る機会を月に1回以上設定をする。	100%	100%	A	予定されている機会について、案内を配布し、実施することができた。	A	学校公開のアンケートでは、学校の子供の様子が見られてよかった・安心したなどの感想が多く寄せられていた。	A	学校公開のアンケートでは、案内の配信から実施、アンケートによる振り返りを滞りなく行うことができた。	A	実施後の保護者アンケートでは、肯定的な感想が多く寄せられていた。	引き続き適切に実施していきけるよう努めていく。
教育の特色ある展開	一部教科担任制の推進	3年生以上による一部教科担任制の実施	児童アンケート教科担任による授業が分かりやすいという肯定的な回答8割以上	100%	100%	A	教科担任を実施している全教員が、担当教科の授業力の向上を感じている。	A	97%の保護者が、教科担任制により、学習活動が充実していると評価している。	A	教科担任を実施している全教員が、担当教科の授業力の向上を感じている。	A	94%の児童が、教科担任による授業が分かりやすいと感じている。	引き続き教科担任制の推進を行っていく。
	本校の伝統を受け継いだ教育活動	金魚の飼育を通じた、生命尊重・動物愛護の精神の育成	全学級において金魚の飼育と月1回以上の水槽の清掃	90%	90%	A	委員会や係の児童が、金魚の飼育に積極的に取り組み、生命尊重・動物愛護の精神を育てている。	A	95%の保護者が、子供たちは生命を尊重し、生き物を大切にしていると感じている。	A	担当の教員の呼びかけもあり、子供たちがしっかりと飼育活動に取り組めるようになった。	A	93%の保護者が、子供たちは生命を尊重し、生き物を大切にしていると感じている。	児童が意欲的に飼育活動に取り組んでいけるよう引き続き支援していく。
	教育活動の充実に向けたICTの効果的な活用	ミライシードを効果的に活用した授業実践	高学年は1日1回、低学年は週に3回以上のミライシードへのアクセス	90%	100%	A	全教員がiPadを効果的に活用して、授業を行っている。更なる充実に努めていく。	A	91%の保護者がiPadを効果的に活用して学習活動に取り組めるよう努めていると評価している。	A	全教員がミライシードを効果的に活用して、授業に取り組むことができた。	A	91%の児童がミライシードを使って楽しく学習に取り組むことができたという回答している。	引き続き、iPadを効果的に活用して学習指導を行っていく。